

「システム開発方法論への科学的アプローチ研究会」研究会  
2018年度第3回勉強会のご案内

2018年10月15日  
情報システム学会同上研究会発

1. 日時：2018年11月19日（月）午後2時00分～午後5時
2. 場所：株式会社プライド会議室

■場所

株式会社プライド

東京都千代田五番町12番地1

番町会館3F

TEL：03-3239-5431

FAX：03-3239-5432

■アクセス

<https://www.naska.co.jp/corporate/access>

JR四ツ谷、JR市ヶ谷から共に徒歩5分

3階エレベータ前の株式会社インフォメーション・ディベロプメント社総合受付 左手奥  
「303会議室」です。

3. 発表

情報システムの設計開発をいかに首尾よく実施するかは方法論を考える上で最も腐心する要である。しかしその一方で、方法論は、使う者たちの理解能力や使命感に著しく依存する宿命を持つ。そのため方法論は、しばしば、マニュアルが書棚の肥やしにされたり、現場担当者の面従腹背に晒されるなど、仏作って魂入れずの憂き目にあってきた。このあたりが日本の情報システム業界の積年の課題であるとも思える。

今回は、自身の方法論＝構築アプローチを厳に保ちつつ、思想と実践の両面から斯界をリードしてこられたシステム・アーキテクトの手島歩三氏を講師に迎え、「要求分析・定義アプローチの不正」という時宜にかなったテーマでお話し頂き、方法論とは何かの原点に迫る議論を楽しみます。

講師：特定非営利活動法人 技術データ管理支援協会 理事・運営委員 手島歩三氏  
タイトル「要求分析・定義アプローチの不正」

日経コンピュータ誌（2018. 3. 1）で指摘したが、情報システム構築の上流工程で少なからぬ問題が起きている。それは情報システムが、今もハコモノ扱いられていることの写し絵であるように見える。ビジネス組織（Enterprise）にとって情報システムとは何か、その特性はどのようなことか見直す必要がある。

これまで上流工程を担当するコンサルタントや上級エンジニアが用いる手法を幾つか経験し、また見聞したが、情報システムに関する認識は必ずしも一致していない。ハコモノ

型のアプローチになっている恐れがある。

ビジネス組織が持つ情報（即ち知識と知恵）を活用するために IT を利用する立場で言う  
と、「柔らかなもの」として情報システムの構築を意識する必要がある。また、ビジネスに関  
与する人々の進化、ビジネス組織の進化を支えるよう、情報システムの構築アプローチを  
抜本的に見直す必要がある。

参加費：無料

★研究会の後、懇親会を催します（費用は実費）。

研究会の参加希望の方は以下のメールアドレスにメールをください。

nakanishi-m■nagoya-ku.ac.jp 中西昌武（名古屋経済大学）宛て

以上